

●9月19日（土）～9月23日（水）

『上海国際交流プログラム～日中に虹の架け橋を～』

15名の生徒が姉妹校である上海市工商外国語学校を訪問、授業体験やホームステイを行いました。

生徒の感想

- ・中国への偏見がなくなりました。中国には悪い印象ばかり持っていましたが、良い人も沢山いることが分かりました。
- ・中国についてマイナスなイメージが多かったけど、行ってみたら親切な人もいて、みんな優しくとても嬉しかったです。勝手なイメージだけで判断してはいけないなと思いました。また、色々な国に行ってみたいなと思いました。
- ・姉妹校生徒の日本語能力に驚きました。でも、話せない子もいて、そういう子と話ができるようにもっともっと中国語を勉強したいと思いました。今度、中国に行くときは、一人でもある程度の話ができるようになれば良いなと思います。

保護者の感想

- ・県立高校に通った娘が他にいますが、このようなワクワクするプログラムに巡り合うことはありませんでした。みなと総合高校を選択したことをとても良かったと思っています。
- ・子どもは、このような国際交流プログラムに興味があり、みなと総合高校に入学しました。実際に参加でき、さらに中国への関心が深まったのがとても良かったです。
- ・多感な時期に国際交流に参加できたことは必ず子供の将来に影響を与えたいと思います。

●ブリタニアセカンダリー受入れホストファミリーからの感想文

入学前から国際交流プログラムに興味があったため、迷わずホストファミリーに応募しました。念願が叶って、昨年11月、我が家にカナダから17歳のA r i がやってきました。練習してきた日本語で一生懸命に挨拶をしてくれました。

日本の文化を沢山吸収したいという前向きな姿勢がよく伝わり、そんな彼女に私たち家族はすっかり魅了されてしまいました。

4泊5日の短い間に、何を食べさせてあげようか、日本らしい文化を紹介したい、かわいいお弁当も用意してあげたい、など準備段階から一番楽しんだのは私かもしれません。浴衣を着せたり、一緒におにぎりやタコ焼きを作ったり。日本茶や和菓子、“conveyor belt sushi”（回転寿司）もとても喜ばれました。

彼女とふれあううちに、文化の違いなどを多く感じました。また、何より驚いたのは娘と同世代の彼女が、とても自立していて、しっかりとした考えを持っていることでした。ホストファミリーを経験して、「言葉の壁は気持ちが伝われば何とかかなる」と実感しました。でも「共通の言葉が話せたらもっと分かり合えるはず」とも思いました。このような機会に恵まれ、素晴らしい貴重な経験ができたことにとっても感謝しています。

●バディ活動レポート（3年次生より）

私は2年次からバディ活動を始め、何ごとにも積極的になることを目標にしてきました。1年次はバディにははいていませんでしたが、クラスに来た留学生によって外国人と話すことが好きになりました。そこから国際関係について興味を持ちはじめ、2年次ではより多くの留学生と友達になり、今でも連絡をとっている友達もいます。みなと総合のバディに入り、世界のたくさんの国に友達ができ、話をしているうちにそれぞれの文化の違い、また言語が異なり上手くコミュニケーションがとれなくてもその壁をのりこえることのすばらしさを学びました。家の事情で留学生のバディはできませんでしたが、そのかわり、留学生に学校でたくさん話しかけました。これも私をもっと積極的にしてくれました。3年次は今まで以上に活動はできませんでしたが、杉原千畝のセッション3回に参加し、杉原千畝のように世界に変化をもたらした日本人について海外に発信していきたいと思いました。また2年次でグループリーダーを担当し、先生方が今まで何人もの生徒をまとめていたことの大変さを学びました。国際交流を通し、今まで知らなかった本当の文化や国の特徴、外国人と日本人の考え方の違い、また共通点など実際に交流をして初めて知る、理解できたことがたくさんありました。グローバル化が進んでいるので、世界の国々について日本との違いについて学ぶことは、とても大切だと思います。異文化を受けとめることはできなくても、学ぶことはできます。私は将来、世界の子供達の国際交流のサポートをしたいと思っています。みなと総合でのバディ活動は、そんな私の夢をあたえてくれました。また言語が違ってても勇気をだして話しかける自信、また3年次になり、バディ活動をひっぱっていく責任感を与えてくれました。